

第62回 発電用設備規格委員会 議事録

1. 日 時：2012年9月18日（火） 10:00～18:00

2. 場 所：日本機械学会 第1会議室

3. 出席者：

森下（JAEA）、宮口（IHI）、波木井（東電）、鈴木（JAEA）、伊勢田（住友金属）、高橋（電中研）
影山（東大）、森（JEA：AM）、伊藤（原技協：AM）、寺井（東大：AM）、村部（日本原電：PM）
浜田（東電）、小山（三菱重工）、増山（九工大）、川畑（日立GE）、鈴木（中部電力）、吉田（発電技検）
船橋（火原協：AM）

代理：

小枝（JSW／楠橋委員：AM）、伊藤（東電／酒井委員）、三好（川崎重工／島川委員）
宮口（三菱重工／加口委員）、中城（東芝／平山委員）、堂崎（日本原電／村部委員：AM）
杉江（原技協／湯原委員）、飯田（東電／小溝委員）、引田（HSB／渡部委員）、永田（日立GE／伊藤委員：PM）

欠席：

牧（NISA）、西脇（東工大）、舟木（経産省）

オブザーバー：

北条（三菱重工）、山田（中部電力）、寺門／藤野（日本原電）、加納（JNFL）、野村（関電）、山本（東芝）
浅山（JAEA）

事務局：

高柳、小沢、海野、釜田、栗津

4. 配布資料：

62-1：第61回発電用設備規格委員会議事録案

62-2：発電用設備規格委員会名簿案

62-3：各専門委員会名簿案

62-4：発電用設備規格委員会幹事会概要

62-5：書面投票結果

62-6：公衆審査結果、質問受付回答状況

62-7：火力専門委員会報告

62-8：原子力専門委員会報告

62-9-1：材料専門委員会報告

62-9-2：発電用設備規格関連の材料事象

62-10：核融合専門委員会報告

62-11-1-1：規格委員会運営規約改訂案（追加提案分）

62-11-1-2：規格委員会審議要領改訂案

62-11-2：「事例規格の出版、改訂等に関する提案」の規格委員会書面投票対応

62-11-3：引用する規格の年版に関する提案

62-11-4：設計・建設規格英訳に関する設計・建設分科会作業会への依頼

62-11-5：福島原子力発電所事故を受けた“外部事象起因のシビアアクシデント対応設計ガイドライン”の開発について

62-11-6：ASME Code Week Washington DCにおけるMDEPプロジェクトSDO打合せ報告

62-11-7：発電用原子力設備規格 設計・建設規格（第Ⅰ編）事例規格 一般要求事項の提案（御意見伺い）

62-11-8：原子力関連学協会規格類協議会状況

62-11-9：ASME 規格値取り込み方法検討案

61-11-9：標準・規格センター運営・企画委員会審議状況

62-11-10：発電用設備規格委員会ホームページファイル共有機能の運用について

62-13-1：マグネット構造規格溶接継手設計規格改訂案

62-13-2：マグネット構造規格 Appendix3C 実験的アプローチによる疲労設計規格案

62-13-3：マグネット構造規格品質保証・材料及び溶接・接合・検査関係新旧規格対照表

62-13-4：規格改訂案に関する核融合専門委員会書面投票結果に対する回答

62-13-5：マグネット構造規格改訂の背景と概要

62-14-1：溶接規格改訂案 規格委員会書面投票意見回答案
62-14-2：溶接規格改訂案 溶接規格 2012 年版改訂案編集上の修正提案
62-14-3：溶接規格 2012 年版改訂案公衆審査計画案
62-15-1-1：設計・建設規格第Ⅰ編 2013 年追補改訂案について
62-15-1-2：設計・建設規格 2013 年追補規格改訂案件一覧表
62-15-2：設計・建設規格第Ⅰ編 2012 年版改訂案提案漏れについて
62-15-3：設計・建設規格第Ⅰ編 2008 年版（2011 年追補版まで含む）正誤表提案
62-15-4：「事例規格」の適用年を変更した改訂版の提案
62-16-1：再処理設備規格 維持規格案公衆審査結果と今後の対応について
62-17-1：材料規格（2011 年版）改訂提案規格委員会書面投票意見対応案
62-17-2：材料規格（2011 年版）改訂提案原子力専門委員会書面投票意見対応案
62-17-3：材料規格（2012 年追補版）公衆審査計画案
62-19-1：設計・建設規格第Ⅱ編 2012 年版規格委員会書面投票意見対応案
62-20-1：磨き加工による応力改善方法規格案
62-20-2：弁、ポンプの溶接継手に関連する非破壊検査要求の適正化
62-20-3：クラス 2, 3 機器の系の漏れい試験範囲の明確化
62-20-4：軽微な技術上の改訂
62-20-5：編集上の修正提案
62-20-6：環境水中のステンレス鋼疲労き裂進展速度における表記に関する質疑応答
62-21：減肉率の算出に用いる最小自乗法計算式の正誤表の発行提案について
62-22：ASME 規格関係委員会の活動状況

5. 議事内容

（１）開会

定足数の確保を確認し、森下委員長が委員会開会を宣言した。また出席者全員の自己紹介を行った。

（２）議事次第確認

議事次第案の確認を行い、変更の提案はなく承認された。

（３）前回議事録確認【資料 62-1】

事務局より前回議事録案の内容について報告が行われた。意見、気付き事項の確認を行った結果、意見等はなく、議事録案は承認された。

（４）規格委員会及び各専門委員会の委員の承認等【資料 62-2, 3】

事務局より以下の通り規格委員会及び各専門委員会委員の再任、退任、新任候補が報告され、オブザーバー／事務局退出後、委員の承認等が審議され、出席委員全員の賛成で承認された。

規格委員会

〔再任〕宮口副委員長、鈴木委員

〔退任〕西田委員、大崎委員、加口委員

〔新任〕白崎氏（関電）、菅野氏（JNES）、宮口氏（三菱重工）

火力専門委員会

〔再任〕田村委員、大橋委員

〔退任〕山本委員、奥野委員

〔新任〕西川氏（大口自家発電）、奥村氏（中部電力）、屋口氏（電中研）、鈴木氏（電源開発）

原子力専門委員会

〔再任〕山田委員、小島委員

〔退任〕三浦委員、国則委員

〔新任〕田中氏（JSW）、糸田川氏（電気協会）

材料専門委員会

(委員の異動なし)

核融合専門委員会

[再任] 西村委員, 船越委員

[退任] 関谷委員, 渡邊委員, 三浦委員

[新任] 相澤氏 (JSW)

(5) 発電用設備規格委員会活動状況報告

(5-1) 規格委員会幹事会報告【資料 62-4】

波木井幹事より第 42 回, 第 43 回の規格委員会幹事会概要として規格委員会委員の貢献の多様化, 原子力関連学協会規格類協議会の活動状況と規格基準策定計画, 原子力専門委員会の審議の充実, 規格委員会ホームページにおけるデータベース整備のためのファイル共有化等について報告が行われた。

(5-2) 投票結果報告【資料 62-5】

事務局より規格委員会と各専門委員会の書面投票結果について報告が行われた。

(5-3) 公衆審査結果及び質問受付回答状況【資料 62-6】

事務局より発電用原子力設備規格に関する公衆審査結果と質問受付回答状況について報告が行われた。

[公衆審査結果]

- ・再処理設備規格 溶接規格 (2012 年版)
- ・再処理設備規格 維持規格 (2012 年版)
- ・発電用原子力設備規格 設計・建設規格第 I 編 (2012 年改訂版)

以上 3 件, 意見なし。

[質問回答実績]

設計・建設規格

- ・QNC200594: 容器, 管等に用いる強め材の材料の使用制限 (回答日: 2012, 8, 29)
- ・QNC200595: JISG3455 等の年版読替 (回答日: 2012, 8, 29)
- ・QNC200596: JISG3103 の年版読替 (回答日: 2012, 8, 29)
- ・QNC200597: JISG4107 の年版読替 (回答日: 2012, 8, 29)

維持規格

- ・QNA200801: 疲労き裂進展速度線図の式において「応力比 $R < 0$ の場合, $R=0$ とする」と解釈して良いか? (回答日: 2012, 8, 29)

(5-4) 火力専門委員会報告【資料 62-7】

飯田火力専門委員会幹事より, 火力専門委員会の活動状況として, 火力規格に関する日本電気技術規格委員会 (JESC) 本委員会の審査結果及び圧力容器国際規格委員会への委員派遣等に関する報告が行われた。

(5-5) 原子力専門委員会報告【資料 62-8】

小山原子力専門委員会委員長より, 原子力専門委員会の活動状況として, 原子力専門委員会での審議の充実化のお願い, 事例規格の出版改訂提案, 外部事象シビアアクシデント対策設備設計ガイドライン案の再書面投票結果, 一般要求事項検討タスク状況, 使用済燃料貯蔵施設規格の金属キャスクバスケット用ほう素添加アルミニウム合金等事例規格案の再書面投票状況, 維持規格封止溶接方法規格案の審議状況等に関する報告が行われた。

(5-6) 材料専門委員会報告【資料 62-9-1, 2】

増山材料専門委員会委員長より, 材料専門委員会の活動状況として, 材料事象の解説策定の状況, 金属キャ

スクバスケット／高速炉規格の新規材料の規格化に関する審議状況等に関する報告が行われた。

発電用設備規格関連の材料事象は現在材料専門委員会の書面投票を実施中であるが、この内容に関する説明が行われた。構成はA-100「一般」からA-900「ボイラ関連の材料事象」までとなっている。基本はASME Section II Appendix Aをベースとしているが、A-900はASMEに規定がなく、JSME独自の規定になっている。本案は今後独立した規格とするのか、他の規格の添付とするのか、の検討を行う。

また材料専門委員会は新規材料の規格化を行うが、他の専門委員会傘下の分科会に対し、「材料規格への反映を希望する材料を積極的に提案して欲しい」との要望が出された。

(5-7) 核融合専門委員会報告【資料62-10】

高橋核融合専門委員会委員長より、核融合専門委員会の活動状況として、超伝導マグネット構造規格改訂案に関する専門委員会投票結果等の報告が行われた。また、次期専門委員長選任の投票を実施中であることが報告された。

(6) 発電用設備規格委員会運営に関する審議／報告

[審議事項]

(6-1) 規格委員会運営規約改訂案（追加提案分）【資料62-11-1-1】

堂崎原専幹事（村部委員代理）より規格委員会運営規約改訂案（追加提案分）に関する説明が行われた。規格委員会NO.192書面投票において反対票が投じられたが、対応案により反対票は取り下げられ、改訂案は可決した。また対応案が編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。

(6-2) 規格委員会審議要領改訂案【資料62-11-1-2】

堂崎原専幹事（村部委員代理）より規格委員会審議要領改訂案に関する説明が行われた。規格委員会NO.193書面投票において反対票が投じられたが、対応案により反対票は取り下げられ、改訂案は可決した。また対応案が編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。

(6-3) 「事例規格の出版、改訂等に関する提案」の規格委員会書面投票対応【資料62-11-2】

杉江溶接分科会幹事（湯原委員代理）より「事例規格の出版、改訂等に関する提案」の規格委員会書面投票（反対票有り）対応案に関する説明が行われた。対応案により反対票は取り下げられ、提案は可決した。また対応案が編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。これにより事例規格集は早ければ2013年度版から発行可能となる。

(6-4) 引用する規格の年版に関する提案【資料62-11-3】

堂崎原専幹事（村部委員代理）より引用する規格の年版案及び発電用設備規格の原案策定に関する内規改訂案に関する説明が行われた。議論の結果、規格委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

[報告事項]

(6-5) 設計・建設規格英訳タスクの状況【資料62-11-4】

永田設計・建設分科会主査より設計・建設規格英訳タスクの状況に関する説明が行われた。9/18にタスクを開催し、設計・建設分科会傘下の各作業会に英訳作業を依頼した。10月中の完成を目標としている。英訳版は産業界からのニーズに対応したもので、規格としては参考資料の位置付けとなり、今後海外に原子力発電プラントを輸出する場合のサポート資料となる。

(6-6) 外部事象起因シビアアクシデント対応設計ガイドラインの開発【資料62-11-5】

宮口規格委員会副委員長より福島原発事故を受けた外部事象起因のシビアアクシデント対応設計ガイドラインの開発に関する説明が行われた。本案は原子力専門委員会再書面投票で反対票が寄せられ、第70回原子力専門委員会において意見回答案に関する説明が行われた。原子力専門委員会各委員は再書面投票意見回答案の内容を確認し、意見回答案の受入れ可否を連絡し、小山原専長はその結果を受けて、二次投票に入るか否かを判断するが、これまで多くの議論が投票を通じて行われてきており、基本は二次投票を実施することが委員多

数の賛成により承認されている。次回も引き続き本案の状況説明が実施される予定である。

(6-7) MDEPの状況【資料 62-11-6】

永田設計・建設分科会主査より ASME Code Week Washington DC における MDEP プロジェクト SDO 打合せ報告に関する説明が行われた。SDO Convergence Board のチャーターについて議論中。また CSWG から提示された Code Harmonization に関する図書に対してコメント提示予定。

(6-8) 設計・建設規格（第Ⅰ編）事例規格一般要求事項の提案【資料 62-11-7】

小山原子力専門委員会委員長より、「設計・建設規格（第Ⅰ編）事例規格 一般要求事項」の提案に関する説明が行われた。現在原子力専門委員会の御意見伺いの投票を実施中である。

(6-9) 原子力関連学協会における活動状況【資料 62-11-8】

宮口副委員長より原子力関連学協会における活動状況について報告が行われた。3 学協会が連携して福島事故以降の民間規格に関して、全 52 規格から成る整備計画案を策定し、現在各学協会において確認中である。今後 JSME としても新規に作成する規格が増えるため、SA 分科会の設立等、シビアアクシデント関連規格策定に関する体制を強化する必要がある。

(6-10) ASME 規格値取り込み検討案【資料 62-11-9】

小山原専長より ASME 規格値取り込み検討案に関する説明が行われた。本案は火力専門委員会と協働して検討した結果、ASME 規格値をそのまま取り込む場合は ASME の SI 単位規定値採用を基本とする。ASME 規格値を参照するが、JSME 独自の検討を行って規定値を定める場合はこれによらないが、考え方を考慮する。今後は各専門委員会及び規格委員会にて本案に関する書面投票を順次実施する予定である。

(6-11) 発電用設備規格委員会ホームページファイル共有機能の運用【資料 62-11-10】

事務局より規格委員会ホームページファイル共有機能の運用案に関する説明が行われた。本システムは規格作成の際に必要となる多くのデータファイルを規格委員会ホームページ上で共有、閲覧、修正できる様にするものである。基本的に委員会単位でルームというフォルダを構成し、各ルームのシステム上の管理は三役に権限を付与するが、三役以外にも 1 名、付与できる。権限が付与された人がルーム管理者である。ルーム管理者はファイルを自由に削除でき、ルームのデータ管理を行う。退任したメンバーのファイル整理（不要なファイルの削除等）もルーム管理者が行う。

今後は 10 月以降、仮運用の予定であり、仮運用の結果等踏まえて、使い勝手等の修正を行い、手順書等の内規の整備を行う予定である。

(7) 火力発電用設備規格に関する審議

火力専門委員会の飯田幹事より、本日の規格委員会では火力発電用設備規格に関する審議事項はないことが報告された。

(8) 核融合設備規格に関する審議【資料 62-13-1～5】

核融合専門委員会の高橋委員長より、超伝導マグネット構造規格改訂案に関する説明が行われた。今回の改定は、材料非破壊試験、溶接部設計法、製造等に係る全般的なものであり、主な内容は、①鍛鋼品 UT の変更、②実験的アプローチによる疲労設計手法の取り込み、③溶接施工法試験の肉厚の見直し、④疲労強度低減係数/継手効率の見直し、⑤溶接継手部超音波探傷試験方法の変更等であり、専門委員会書面投票は既に終了・通過している。規格委員会書面投票の実施が提案され、委員全員の賛成により承認された。

(9) 原子力発電用設備規格に関する審議

(9-1) 溶接規格に関する審議【資料 62-14-1～3】

溶接分科会の杉江幹事より溶接規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①規格委員会書面投票意見回答案【資料 62-14-1】

規格委員会書面投票（一部反対票有り）意見回答案に関する説明が行われた。回答案により反対票は取り下げられ、議論の結果、回答案が編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・溶接規格の解説中の溶接継手形状図と設計・建設規格の溶接継手形状図は整合を取るべきではないか？⇒ ASME を踏襲した設計・建設規格の図のままより、旧溶接解釈の質疑応答で同等と認められている図の方が、実際的な継手形状と考えられる場合があるため、設計・建設規格からあえて変えている継手形状図が一部ある。ご意見については、改訂の可否を含め今後の再改訂で検討する。

②溶接規格 2012 年版改訂案の編集上の修正【資料 62-14-2】

溶接規格 2012 年版改訂案の編集上の修正に関する説明が行われた。議論の結果、改訂案が編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。

③溶接規格 2012 年版改訂案の公衆審査計画案【資料 62-14-3】

事務局より溶接規格 2012 年版改訂案の公衆審査計画案に関する説明が行われ、承認された。なお規制側への送付先は原子力規制庁の新組織とした。

（9－2）設計・建設規格に関する審議【資料 62-15-1～4】

設計・建設分科会の永田主査より、設計・建設規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①設計・建設規格第 I 編 2013 年追補改訂案【資料 62-15-1】

設計・建設規格第 I 編 2013 年追補改訂案の規格委員会書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、原子力専門委員会書面投票可決を条件に、規格委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。主な議論は以下の通り。

- ・NO.1 の JIS 規格の最新年版適用可条件追加について、JIS 年度版読替に関する質問に対して不可と答える可能性があるのでは？⇒ 原子力専門委員会の審議結果次第ではそうなる可能性もある。⇒ 質問回答は規格委員会が審議しないのでこの点に留意する必要がある。
- ・NO.7 の設計・建設分科会の事例規格集提案で事例規格名称に「改」と「ダッシュ」の 2 種類あるが、どう違うのか？⇒ 「改」は記載内容の変更を行ったもので、「ダッシュ」は単に適用する設計・建設規格の年版を削除したものである。

②設計・建設規格第 I 編 2012 年版改訂案提案漏れ【資料 62-15-2】

設計・建設規格第 I 編 2012 年版改訂案での提案漏れに関する説明が行われた。クラス 3 容器の継手区分 C の構造図の修正が、同様な図を有するクラス 4 配管で修正漏れとなっていたため、その反映を行うとのもの。議論の結果、編集上の修正であることが委員多数の賛成（賛成 21 票；保留 1 票）により承認された。

③設計・建設規格第 I 編 2008 年版（2011 年追補版まで含む）正誤表案【資料 62-15-3】

設計・建設規格第 I 編 2008 年版（2011 年追補版まで含む）正誤表提案に関する説明が行われた。議論の結果、正誤表を発行することが委員全員の賛成により承認された。

④「事例規格」の適用年を変更した改訂版【資料 62-15-4】

「事例規格」の適用年を変更した改訂版の提案に関する説明が行われた。事例規格「压力容器用調質型合金鋼鍛鋼品 SFVQ1B に関する規定」は既に材料規格 2011 年版に取り込まれており、設計・建設規格 2011 年追補版以降への適用は不要である。一方、オリジナルの事例規格の適用は 2005 年版と 2007 年追補版に限定されており、2007 年追補版から設計・建設規格 2011 年追補版までの間への適用に抜けがでるため、これらに対応した適用年版の事例規格を発行するとの提案。議論の結果、書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。なお本日の提案資料では一部古い記載となっていたため、書面投票時には最新版の記載に差し替えることになった。

（９－３）再処理設備規格に関する審議【資料 62-16-1】

再処理設備分科会の加納幹事より再処理設備規格の維持規格案の公衆審査結果と今後の対応に関する説明が行われた。公衆審査は 7 月 13 日から 9 月 13 日の期間で実施され、意見は寄せられなかった。これにより規格案が確定し、今後出版手続に入ることが報告された。

（９－４）材料規格に関する審議【資料 62-17-1~3】

材料分科会の山田主査より、材料規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①材料規格（2011 年版）改訂提案規格委員会書面投票意見対応案【資料 62-17-1】

材料規格（2011 年版）改訂提案（その 1 残り分）規格委員会書面投票（可決）意見対応案に関する説明が行われ、対応案が妥当であることが委員全員の賛成により承認された。

②材料規格（2011 年版）改訂提案規格委員会書面投票結果【資料 62-17-2】

材料規格（2011 年版）改訂提案（その 2）規格委員会書面投票結果（可決；意見なし）に関する報告が行われた。

③材料規格（2012 年追補版）公衆審査計画案【資料 62-17-3】

事務局より材料規格（2012 年追補版）案の公衆審査計画案に関する説明が行われ、承認された。

（９－５）高速炉規格に関する審議【資料 62-19-1, 2】

高温規格分科会の浅山主査より設計・建設規格第Ⅱ編 2012 年版規格委員会書面投票（可決）意見対応案に関する説明が行われた。議論の結果、意見対応案が編集上の修正であること、公衆審査を実施することが委員全員の賛成により承認された。なお、裏当て金の表記の統一については、溶接規格での表記を基本として、関係する分科会（溶接分科会、設計・建設分科会、高温規格分科会）で調整することになった。

（９－６）維持規格に関する審議【資料 62-20-1~7】

維持規格分科会の野村主査、検査作業会の寺門主査、藤野委員、評価作業会の北条主査、補修作業会の山本主査より維持規格改訂案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①磨き加工による応力改善方法規格案【資料 62-20-1】

規格委員会書面投票（可決）意見対応案に関する説明が行われ、意見対応案が編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。

②弁、ポンプの溶接継手に関連する非破壊検査要求の適正化【資料 62-20-2】

規格委員会書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、規格委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

③クラス 2, 3 機器の系の漏えい試験範囲の明確化【資料 62-20-3】

規格委員会書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、規格委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。

④軽微な技術上の改訂案【資料 62-20-4】

維持規格 2012 年版の編集上の修正リストを前回規格委員会に提示した際、編集上の修正と言えるか否か、規格委員会三役にて判断することとなったが、その結果、編集上の修正とは言えないと判断された案件についての規格委員会書面投票提案に関する説明が行われた。議論の結果、原子力専門委員会書面投票可決を条件に、規格委員会書面投票を実施することが委員全員の賛成により承認された。また、変更内容が軽微であるため投票期間を 2 週間とすることも承認された。

またこのような軽微な技術的変更をより迅速に審査・決定できる様、審議要領に「軽微な技術的変更に関す

る委員会における挙手による審査」を加えてはどうか、との提案があり、幹事会にて次回改訂への反映を検討することとなった。

⑤編集上の修正案【資料 62-20-5】

維持規格 2012 年版の編集上の修正リストを前回規格委員会に提示した際、編集上の修正と言えるか否か、規格委員会三役にて判断することとなったが、その結果、編集上の修正と言える判断された案件に関する説明が行われた。議論の結果、編集上の修正であることが委員全員の賛成により承認された。

⑥環境水中のステンレス鋼疲労き裂進展速度における表記に関する質疑応答【資料 62-20-6】

環境水中のステンレス鋼疲労き裂進展速度における $R < 0$ の場合の解釈に関する質疑応答に関する報告が行われた。本件、既に原子力専門委員会にて承認済であり、ホームページにもアップ済である。

⑦維持規格（2012 年版）公衆審査計画案【資料 62-20-7】

維持規格（2012 年版）案の公衆審査計画案に関する説明が行われ、承認された。

（9－7）配管減肉管理規格に関する審議

配管減肉分科会の伊藤委員（東電）より配管減肉管理規格の修正提案に関する説明が行われた。内容は以下の通り。

①減肉率の算出に用いる最小自乗法計算式の修正【資料 62-21】

「BWR 配管減肉管理に関する技術規格(2006 年版)」の CA-5100 項の減肉率算出に用いる最小自乗法計算式は矛盾を含み式として成立していないことが判明したため、この修正に関する説明が行われた。当該計算式を誤記と判断して正誤表を発行することが提案されたが、内容的に正誤表で処理するのは適切ではないこと、及び同一式を含む PWR 配管減肉管理規格も合わせて修正することが必要であることから正式な改訂提案とし、それまでの臨時措置として質疑応答として次回原子力専門委員会に提案することになった。

（1 0）関連機関状況報告【資料 62-22】

杉江委員代理より ASME 規格関係委員会の活動状況について報告が行われた。

（1 1）今後の予定

今後の発電用設備規格委員会の開催予定は以下の通りとなった。

第 63 回規格委員会：12 月 10 日（月）10:00～17:00 JSME 第 1 会議室

第 64 回規格委員会：2013 年 3 月 13 日（水）10:00～17:00 JSME 第 1 会議室

以上